

### 1 自己評価及び第三者評価結果 (せせらぎ)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873400762		
法人名	社会福祉法人 宝寿会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	兵庫県神埼郡神河町福本字中茶屋山1241-3		
自己評価作成日	平成28年3月10日	評価結果市町村受理日	2016年 6月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://hyougo-kai.go.com/">http://hyougo-kai.go.com/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	平成28年3月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の中で、四季の移り変わりが感じられる、静かな環境に恵まれている。</li> <li>・地域のボランティアによる、歌唱・リハビリ体操・紙芝居・映画上映等、交流している。</li> <li>・入居者の誕生日に、誕生会を行い、好みの食事やケーキでお祝いをしている。</li> <li>・併設特養との交流や行事参加がある。</li> <li>・食事の献立は職員が作成し、食材の買い物も二日ごとに行っている。</li> <li>・季節を感じる献立を工夫し、地域で穫れた野菜・果物を使うようにしている。</li> <li>・訪問看護との連携で、健康チェック及び、体調の変化対応できるようにしている。</li> </ul>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>豊かな自然に恵まれた地で、利用者と職員は共に助け合い、楽しみながら生活を送っている。1階と2階の各ユニットが、それぞれにレイアウトや掲示物で季節毎の変化を取り入れ個性豊かに演出している。普段の生活の中に、利用者個々の誕生日のお祝いや、家族と一緒に楽しめる多彩な行事を盛り沢山に取り入れ、食事も献立から買い物、調理まで全て手作りで工夫している。職員も主体的、積極的に利用者となれあひ、共に生活を楽しんでいる。今年度、初めての看取りを経験したことで、最後までここで暮らしたいとの利用者の願いを実現でき、その結果、職員のステップアップ、意欲向上の貴重な経験ともなった。利用者一人ひとりに向き合い、最後まで自分らしく過ごせる「自分の家」となれるよう、さらなる研鑽を今後も期待したい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および第三者評価結果

(せせらぎ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者が職員と共に楽しみを持ち、自分らしく暮らせるホームを目指します」という理念を元に、管理者、職員と共有し意識づけた上で、日々の業務に取り組んでいる。	年度当初に、職員間で一年の目標設定を立て、反省会の折りに再確認している。利用者の「自分の家」となるために、個々の生活が楽しめるよう取り組んでいる。理念の実戦に向けた具体的な方針を掲示し、職員間で共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の文化祭には、手作りの作品を出品し、見学することで地域の方と会う機会が来ている。 地域の芸能発表会に参加することは出来たが、地元の高校の文化祭には、体調不良の為、参加する事は出来なかった。	地域の事業所や有志が集まり、年に2~3回「楽護会」を開催している。月に1回サロンを開き、利用者の家族にも参加を呼び掛けている。夏には障がい児とボランティアと一緒に川遊びをした。小学校や高校からのボランティア訪問を受け、利用者も交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一昨年より、地域の事業所有志で「地域サロンらくや」を立ち上げている。職員が一員となり活動、数名の入居者も参加され、地域の方と認知症の方との交流が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、入居者、家族が出席し、意見交換出来る時間を設けている。家族からの要望、意見には耳を傾け、応じる様に努めている。	年3回の開催で、民生委員、家族、町の福祉担当者、併設特養の職員等が参加している。活動内容のスライド発表、家族からの要望を受けるなど、情報交換の場となっている。時には訪問看護からの出席もある。今年度、初めての看取りの報告を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、町担当者に質問など積極的に行い、アドバイスを受けている。 運営推進会議には、町担当者に出席をお願いしている。	町の福祉担当者とは電話でやりとりしている。町の方針、制度変更時や研修案内の情報提供が必要に応じてある。質問については必ず返答を得ており、その都度相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	あると同時に、ホームでの会議、その都度職員で話し、確認している。日々の声かけ、普段行っているケアについても職員間で話し合いをしている。玄関の施錠については、玄関横の坂道が急な為、安全を優先に考えて施錠はしている。	定期的に研修を行っている。利用者全員で外へ出ることもあり、必ず職員が付き添っている。玄関は施錠しているが、掃き出し窓と勝手口は開けている。現在1名の利用者が家族の了解を得て、夜間のトイレ誘導時の見守りのために、センサーマットを使用している。	少しの時間でも玄関を開錠できるよう、継続して検討していただきたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルは常備している。 日々、入居者の身体状況の変化については、その都度、職員同士話し合いを行っている。年間の職員研修の中で、学ぶ機会がある。	上記同様に研修をおこなっている。虐待防止の冊子も用意し、職員への周知を図っている。利用者の夜間の動きについては、毎月のミーティングで職員間で検討し共有を図っている。管理者は、職員から個別に話しや悩み等を聞くようにしている。	

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するパンフレットは、備えている。	現在、制度利用者はいないが、以前利用していた事例があり、身近に学ぶ機会があった。職員は、内部研修を通じて実践につなげている。家族には、必要に応じて情報提供できるよう資料等を準備している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時に於いて、サービス内容に関する説明を詳細に行い同意を得ている。家族の協力の必要性について説明し理解及び納得を得ている。	契約時には、不明点や不安な事がないように詳細に説明し、納得を得て締結するようにしている。他施設との違い、オムツや日用品の費用等、入退院時、又は状態が悪化した場合の車椅子の利用についてなど、丁寧に話しをしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は、日時を設定し入居者、家族の出席の元、意見交換を行っている。入居者、家族からの要望、意見に応じる様に努めている。	運営推進会議以外の普段の面会時などでも、できるだけ家族との関わりを持つように心がけている。バーベキュー大会、9月のふれあい祭りなどの年間の行事に家族を招待し、意見を聞く機会を設けている。毎月手紙で利用者の様子を知らせている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホーム会議に於いて、職員の意見、提案を出せる機会を持っている。日々の業務に於いては、改善点、提案の話が出来る様にしている。年1回の自己評価を実施し自己啓発を図っている。	月に1回のミーティングで、職員の意見や提案を促している。今までに買い物の回数、行事のある時のシフト調整、ミキサー食のプレnderの購入、食事を乗せるトレイに敷く滑り止めなどの提案があり、柔軟に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年1回、自己評価と目標をあげている。人事考課により、職員の努力を評価している。パート職への日曜日手当、残業手当支給。年末年始手当。処遇改善手当。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用後の新人研修。月2回の職員研修。必要に応じて外部研修の機会を設けている。毎月、特養で職員によるスキルアップ研修		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事業所の有志職員で、立ち上げた楽談会とグループで勉強会に参加し、他の事業所の職員と交流する事が出来た。		

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを基として、本人との事前面接、自宅訪問やホーム見学等を通じて安心に繋がる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との事前面接に於いて、困り事、不安事、要望等を受容し、本人、家族の思いを傾聴し、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーからの情報、併設特養からの情報を得ながら、本人と家族が必要としている支援が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とのコミュニケーションを図りながら、今までの人生に於いて得てきた知恵や経験を教わり、それを生かした個々の入居者の支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族や本人の思い、気持ちを受容しながら、楽しく暮らせるよう、家族との時間も大切にしながら、環境づくりに努めている。又、お出かけや誕生会等の参加もして頂いている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院への送迎。ふれあい祭り(年間行事)等により地域の友人や知人等、再開の支援を行っている。	毎年9月のふれあい祭りを始め、多数の行事に家族や知人だけでなく、地域の方やボランティアにも参加を呼び掛けている。家族の協力を得て、盆と正月には帰宅する利用者もいる。職員の送迎で定期的に馴染みの理美容院に行ったり、自宅近くの寺の法要に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に生活する中に於いて、利用者同士が思いやりや助け合う気持ちが持てる様な環境づくりに努めている。入居者間のトラブルに於いては、職員が仲介し入居者同士の関係緩和に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養への移動や入院の際も、面会やお見舞い等にて、様子や状態を把握するよう努めている。又、入居者のケアについても、職員同士で話し合いをしている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を念頭に個々のケアに努めているが、段々と重度化されている入居者様に於いては、コミュニケーションが取りづらい状況である。その中で、声かけやスキンシップにて意思伝達出来るよう努めている。	契約時に利用者や家族に意向を聞いているが、入居後は、日常的に会話の中からくみ取っている。困難な場合は、職員が交代して話を聞くようにしている。利用者個々に、入浴時などの気持ちの落ち着いたときに聞いたり、音楽を聴いている表情を観察して意向の把握に努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家人や担当のケアマネより生活情報を取り入れながら、又、ホームでの日常生活をみながら、情報の共有に努めている。入居者様とも会話する事で、馴染んだ暮らし方の情報を得ている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活動作記録、ケース記録、引き継ぎ帳、又、職員同士の口頭での引き継ぎ等にて、入居者の状態把握に努めている。受診の際は、各入居者の受診ノートへの記録において、状態を把握している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者自身の自己決定や希望を優先して、出来るだけ実現可能な計画を立てているが、入居者の重度化の意味で、希望を聞く事が困難な場合が増えてきた為、日常の様子観察にて考えていくよう、対応している。	全職員で、利用者の詳細な状況をケース記録に残し、状態把握を行っているが、モニタリングの書式としては不十分となっている。月に1回の各ユニット会議で検討し、ケアマネが家族の意向を参考に、利用者本位の介護計画を作成している。	職員によるモニタリングの実施、そのための書式の検討を望みたい。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活動作記録を基本とし、個人記録にも記入している。特記事項や重要項目は引き継ぎ帳にも記入して、職員同士、口頭でも伝え合い、日中や夜間時の記録、様子等を把握出来るよう努めている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族から希望があれば、入居者の居室に宿泊したり、食事も共に出来るようにしている。又、入居者の希望で、外出や自宅への外泊等、その時に応じた支援に努めている。併設特養の行事へも参加し、交流を図っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に一度、ピアノ伴奏により歌を唄う健康懐メロ教室を楽しまれたり、習字教室に参加され町の文化祭に出展されている。又、若菜会やキラリ、映画鑑賞も楽しんでいる。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から継続して受診行っている。かかりつけ医や協力病院(神崎HP)を受診している。家族が付き添えない時は職員が付き添っている。	家族によるこれまでのかかりつけ医の受診を継続している。やむをえない場合は職員が付き添うが、利用者の状態変化や詳細な説明が必要な場合には、職員が同行することもある。希望により歯科往診も利用可能である。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護師に、日常の健康管理や緊急時の対応や処置を行っていただき、アドバイスも受けている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対して本人に関する情報提供を行い、又、病院での状況を面会を通じて把握する。退院後は医療従事者より引き継ぎ、より良いケアに努めている。	法人嘱託医及び訪問看護との連携により、充実した健康管理の体制が整備されている。その結果、入院回避、早期発見も可能な環境となっている。入院時は、職員がこまめに見舞い声かけするなど、安心して治療できるよう医療関係者とも相談している。早期退院に向けた受け入れにも柔軟に対応している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した場合や終末期を迎えた入居者に対しては医療関係者や家族、引受人の意向を確認した上でチーム全員で共有しその時に備えた対応を行っている。	初めての看取りを行った。利用者のこれまでの思いを受け留め、思いのままに過ごしてもらい、家族と一緒に過ごす時間を大事にした。自分の家のように安心して過ごせる環境を心がけ、全職員で見送ることができた。この経験を踏まえ、今後に活かしていきたいと考えている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修やスキルアップ研修で応急手当の訓練や勉強会を行っている。急変時は担当職員より対応処置について引き継いでいる。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設特養と合同で年に2回、昼間、夜間を想定した消防避難訓練を実施している。大雨の際は地元防犯の見守りがある。専門家による点検の他、毎月職員による防火設備の点検も行っている。	年2回の昼夜想定総合訓練を利用者と共に行っている。毎回、火元を想定し避難経路の確認を行っているが、車いす対応が課題となっている。併設施設の応援、協力体制の強化を検討している。運営推進会議でも、地域の協力体制の必要性を働きかけている。	今後も継続して、協力体制の強化を図っていただきたい。

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の性格や能力を把握し自尊心を傷つけないような言葉かけを心掛けている。	認知症の理解をベースとして職員は学んでいる。高齢者を敬う姿勢を前提に、やさしい言葉かけを心がけている。重度化の状況ではあるが、目を見て声をかけるよう職員間で確認している。利用者同士の関係性、状態の違い等を鑑み、配席にも気をつけている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が重度化する中で、自身の思いが理解できない時がある。日頃の入居者の表情や行動を観察し出来るだけ本人の希望を取り入れ自己決定が出来る様に努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合わせ、無理強いせず過ごして頂いている。又、個人の希望で地元美容院等の外出支援も行っている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診や家族と外出する際、衣類を選んで頂くようにしているが、選択できない入居者には職員が選んでいる。又、行事や誕生日会においても髪の手入れや身だしなみに気をつけている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	鍋物や焼き物等、季節の献立を考え、目の前で調理し、又、入居者にも手伝っていただいている。誕生日には、入居者の希望食を取り入れ食事の彩りにも配慮して食欲がそそる様な工夫を心掛けている。	普段の家庭料理を中心に、利用者の好みを反映し、メニューを決めている。旬の食材を使った季節感のあるメニューを心がけ、食べやすい調理法や味付けを工夫している。利用者も下ごしらえから調理、盛り付け等、率先して携わっている。職員との会話も弾み楽しい時間となっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉や魚のバランスを考え調理している。入居者に合わせて、ミキサー食、刻み食の対応も行い食事量の少ない入居者に対してはカロリーゼリー等で補っている。食事量や水分量はパソコンに記録し栄養管理や摂取量の把握に努めている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけしながら口腔ケアを行っている。うがいが出来ない方は口内用のスポンジやケアウェットティ等で残さ物を取り除いている。移動が困難な方はその場でガーグルベースを使用しうがいをされている。義歯は夜間に洗浄剤に浸している。		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁を防ぐ為、排泄パターンを見ながら、本人に伝えトイレでの排泄を促している。排泄後は、温かいタオルで清拭し、清潔保持に努めている。排泄困難な方は、居室にポータブルを設置し、使用している。	自分でトイレに行く人以外は、失禁を防ぐためにこちらから声かけしたり、誘導している。利用者一人ひとりのパターンに応じ、食事前や表情や様子から察知し、さりげなく誘導している。拒否の場合は、タイミングを見て職員が交代して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には、ヤクルトを提供している。野菜を多く取り入れた献立を作る様にし、パン食時には、ヨーグルトもつけて食べて頂いている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後2時から、入浴時間となっている。入居者の重度化に伴い、入浴介助に時間を要する為、入浴回数が少なくなっている。	汗かきで毎日入っている人もいるが、多数は一日置きに入浴している。手足や体を伸ばすことでリラックスできる時間であったり足浴を希望するなど、個々の好みを大事にしている。職員とおしゃべりを楽しみに背中を流してもらっている人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた寝具で、居室内の気温、湿度など注意をしている。冬場は、加湿器を設置、照明もその時に応じた明るさで対応している。眠れない方には、身体の温まる飲み物、話を傾聴しながら、入眠促進する様に努めている。朝は、無理な声かけは控えて、寝て頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の受診ノートで記録している。服薬介助者の氏名を記録し、残している。受診ノートには、受診した職員が記載し、誰もが見る事が出来る様にしている。記録見た時点で、名前を書く様にしている。服薬が困難な方には、ゼリー、オブラート等で包んでから服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の重度化しており、出来ない事が増えてはいるが、洗濯たたみ、食事作りの簡単な手伝い、お盆拭きなど、出来る事など職員と一緒に会話を交えながらして頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの外出したいとの希望は、あったと思われるが、声に出しては聞けなかった為、ホームで過ごす頂く事が多かった。一部の入居者には、馴染みの美容院へ出かける事の支援は出来た。	日々の食材の買出しにスーパーに行っている。カートを押しながら食べたい物を見たり、品定めをしてもらっている。畑や花の水やりやゴミ出し、近隣の散歩等、日常的に行っている。家族の協力で寺参りや自宅に一時帰省する人もいる。希望でドライブにも行っている。	



自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預かり、記帳し本人に渡し買い物できる環境にしている。行事や外出の時は、ホームが建て替え金にて使用している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望される入居者に対しては、出来るだけ希望に添えるように対応している。年賀状、クリスマスカードなど家族から届いている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や壁には、季節感を感じるような飾りを入居者と共に飾り、季節感を感じて頂く。又折り紙などで季節の花を折り季節感を味わう。	リビングからは、プランターの花がまじかに見られ、水やりもできる。畳のスペースには、ひな壇が飾られており、利用者が洗濯物をたたんでいる。キッチンの作業スペースも広く、後片付けや準備等、利用者が使いかってよく作業をしている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに大きなソファを置き入居者同士が自由に座り、話し合える環境、空間を備えている。屋外には、散歩時に、外気浴など休めるベンチを用意している。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	年月と共に、高齢で身体機能低下の入居者が増し、ベッドで過ごす入居者多くなったが、個々の思いでとなる物品を置いたり、写真などをかざる。	洗面が常設され、ベッドは各自持参している。障子と畳の和室も用意されており、布団を敷いて休んでいる人もいる。自宅の雰囲気を再現できるように、使い慣れた筆筒や椅子、飾り棚を持ち込んでいる。お誕生日の写真や手作り品が、飾られている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ内、浴室に手すりを設置し安全に立位、歩行できるようにしている。入居者に話かけ易く、見えやすい位置にトイレ表示している。キッチンに入居者に合わせて対面カウンターを設置している。		